

石巻赤十字病院 研修レポート

卓越3期生 Dグループ

1. 研修前の知識

石巻の年齢構成、病院と診療所の区別、医療機関の役割分担、地域病院の役割、地域連携など、今回の見学に関連する情報について予め調査したが、詳細な実状はわかっていなかった。また、地域病院と大学病院との違いも十分に理解していなかった。外科手術と救急医療に関しての知識も少なかった。

2. 研修の目的

- 地域医療の現状の理解と課題の発見
- 地域病院で見た現状を踏まえて、未来の社会問題の解決に役立つように解決策を考える
- 医療現場で見た問題を自分の研究に役立てる

3. 到達目標

地域病院での研修を通じて、地域病院の役割、医療機関の役割分担、災害医療、高齢者医療、総合患者支援センター、夜間救急などを理解する。地域医療の現状を把握して問題点を発見し、その解決策を考える。

4. 研修内容

1～3日目は石巻赤十字病院で主に講義と各部門の見学を行い、4日目は南三陸病院で行われている訪問診療に同行した。5日目に研修で得られた成果を現地の職員にむけて発表した。

講義では医療圏における石巻赤十字病院の役割についての説明を受け、医療圏内で唯一救命救急センターを持つ急性期病院であり9割以上の病床が稼働していることや、急性期の病床が中心であるため他の医療機関と連携し、地域全体で慢性期や回復期を含めた包括的な医療を提供していることなどを学んだ。また、石巻赤十字病院では震災等の災害時に救護活動を行うために研修や訓練を行っており、東日本大震災の時にも救護活動においての中心的な役割を果たしたことや、原子力発電所に近接していることから被ばく事故に対応する訓練も行われていることも学んだ。

院内の見学については1日当たり1～2か所訪問し、グループ全体で夜間救急と外科手術を見学した。また、それぞれの興味に応じて放射線課、薬剤部、リハビリ課、透析センター、脳神経内科を個人で見学した。私が見学した脳神経内科ではパーキンソン病について説明を受け、現在の治療法の課題を学んだ。

南三陸病院では先天性風疹症候群の患者と認知症の患者の訪問診療に同行し、意思疎通が困難な患者に医療を提供することの難しさを学び、患者本人のための医療を提供する方法について考えた。



5. 研究に活かせる点

脳神経内科の見学では、現在のパーキンソン病の治療薬は副作用のために使用の制限が大きいことや、初期に現れる自律神経症状に対する療法が少ないことを学び、副作用の少ない薬の開発や自律神経症状に対する治療法開発はニーズがあると感じた。また、根本的治療法がないことや発症の予見が難しいことも学び、発症メカニズムの解明や予防薬・根本治療薬の開発が求められていることを再認識した。医療現場で働く方から直接お話を伺うことができ、研究へのモチベーションに繋がった。

6. 石巻赤十字病院と南三陸病院に潜在する課題

a. 人材の不足、業務の効率化

石巻赤十字病院は石巻・登米・気仙沼医療圏内で高次診療機能を備えた唯一の病院であるものの、都市部の病院と比較して専門的知識を保有する医療従事者が少なく、また高齢化や異動によって熟練の人材が流出し新規人材も入りにくい状況にある。患者の全身状態に合わせた高度医療を提供するにあたって専門的知識を有する人材は必要不可欠であり、地域全体の充実した医療体制の構築のためにも新規人材の加入が望ましい。

人材の確保は、地域医療に必要となる多様な症例・多様なニーズに対応する医療の提供につながると考えられる。また、仕事がある医療従事者に集中し疲弊するといったことを減らすことができ、患者のQOLだけでなく医療従事者のワーク・ライフ・バランスや更なるスキル向上につながると予想され、病院や地域全体で大きな効果が見込めると考えられる。また、人材が確保できない場合はそれを代用するようなツールやシステムの導入も検討することで一定以上の効果が担保できると考えられる。今後、人材が不足している業務内容や患者の年齢別ニーズの傾向など調査する必要がある。

b. 高齢者の移動の困難さ

患者の高齢化に伴い、訪問診療に移行する患者が増加している。しかし、石巻・登米・気仙沼医療圏においても病院が少なく、定期的に医師の診察や医療従事者によるケアが必要な患者は数日～数週といった短期間で訪問診療が必要になる。訪問診療は運搬できる医療リソースが少ない中、病院から各家庭に医師や看護師といった医療従事者が限られた時間で行うため、十分な医療を提供できているとは言えない。本研修中にも、医療従事者は患者や家族に対してあまり多くのケアを行うことができないと述べていた。また、訪問診療が必要な患者は医療設備が必要あるいは身体的・精神的理由から移動の困難な方が多いため、災害時の避難に支障がある。

以上のことから、訪問診療ないしは災害医療において高度なケア・サポートが必要となる患者・家族に対して緊急時の医療提供用物資の拡充や遠隔医療提供用ソフト開発などによる、ケアの改善の必要性を感じた。

7. 研修の限界・改善点等

＜ 限界 ＞

1週間といった短い期間での研修だったため、観察や議論をあまり深めることができない部分も多々あった。また、災害医療、地域医療、高齢化対策とさまざまな話題があり、何にフォーカスして考えていくかといった点で思考に迷いが見られた。

＜ 改善点 ＞

研修の前半で今年度のように様々な場所をめぐり、後半で課題に感じた内容・分野について突き詰めて考えられる時間を設けることができれば、更に建設的な議論ができるのではないかと感じた。

8. まとめ

今回石巻赤十字病院や南三陸病院といった地域病院での研修を通じて、地域病院の役割や災害医療、高齢者医療の現状や課題について理解することができた。

石巻赤十字病院は医療圏内で唯一救命救急センターを持つ急性期病院であり、9割以上の病床が稼働している。また、震災等の災害時に救護活動を行うために研修や訓練を行っており、東日本大震災の時にも救護活動においての中心的な役割を果たした。更に原子力発電所に近接していることから被ばく事故に対応する訓練も行われている。このように石巻赤十字病院は地域医療の拠点であるだけでなく、災害医療や高齢者医療の重要な拠点となっており、限られたリソース・時間の中でその状況に合わせた対応をする必要がある。超高齢化社会が進み、また災害の多い日本の未来の医療のあり方を最先端で模索している病院であったが、同時に地方病院や日本医療特有の課題を多種内包していた。病院と家庭だけでなく、病院と家庭、地域、国が一体になって連携し、効率的な医療を提供していくことが超高齢化などに対応できる未来医療を実現する上で必要であると感じた。